

第4学年 国語科学習指導案

場 所 大会議室
児 童 4年2組 34名
指導者 八重樫 陽子

1 単元名 感想を交流しよう

中心学習材 『一つの花』 作 今西祐行 (光村図書4年上)

補助学習材 『まちんと』 作 松谷みよ子 (偕成社)

『おかあさんの紙びな』 作 長崎源之助 (岩崎書店)

『キャラメルの木』 作 上条さなえ (講談社)

2 単元のねらい

本単元では、学習指導要領の「C 読むこと」第3学年及び第4学年指導事項(1)目標「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」ことを受けた「文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。」「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。」を重点として設定している。

本単元では、戦争と家族をテーマにした作品を読むことを通して、登場人物の気持ちの変化や情景などについて自分の読みをもち、一人一人の感じ方の違いを大事にしながら交流を通して読みの世界を広げたり深めたりする姿を目指していきたい。

3 単元の指導構想

(1) 児童について

児童は、「読むこと」の学習として、『白いぼうし』では、シリーズ読書をしながら、不思議だと思ったところを紹介する学習を行った。この学習から、人物の特徴や構成、描写の仕方などの共通点について自分の読みをもち、その根拠となる叙述や選んだ理由について一人一人の感じ方には違いがあることに気付くことができるようになってきている。

そこで、本単元では、作品を読んで学習課題を立てたり、同じテーマの作品を重ねて読んだりしながら、本や文章の内容に対する自分の読みをもち、互いの読みの違いを大切にしながら交流を通して自分の読みを広げたり深めたりしていきたい。

(2) 学習材について

中心学習材『一つの花』は、ゆみ子に対する両親の思いが「一つだけ」というキーワードを軸に人物の行動として表現され、出来事が展開する作品である。テーマ性が強く、時代設定や登場人物の行動がとらえやすいため、当時の人々の生活や思いに心を寄せ、戦争中における家族の思いや願いに対して自分の読みをもつことができる作品である。補助学習材としては、戦争と家族がテーマとなっている3作品を選定する。中でも『おかあさんの紙びな』は、登場人物や時代、中心となる出来事に共通点が多く、子を思う親の心情を重ねて読むことができるなど、『一つの花』の読みを生かすことができる作品である。戦争を身近に感じる事が難しい今の子どもたちにとって、これらの作品を読むことは、他者の思いや考えを大切にしながら自分の読みを広げたり深めたりする上で意義深いことと考える。

(3) 指導にあたって

本単元では、「戦争と家族をテーマにした作品について、自分の読みを交流し合う」言語活動を行う。本単元における「自分の読み」とは、「登場人物の気持ちの変化や情景などについて自分の経験

と結び付けて思ったことや考えたこと」ととらえる。そのために、自己と「事象」「友達」「未来」とのつながりを大切に、それぞれに関する手立てを位置付けて指導していく。

自己と「事象」とのつながりで大切にすることは、「学習課題に対する自分の読みをもつこと」である。そのための手立てとして、題名と挿絵を手がかりとしながら学習課題をつくり、その課題について考えていくことで自分の読みをもつことができるようにする。また、『一つの花』と『おかあさんの紙びな』を重ねて読むことで、子を思う親の気持ちについて自分の読みを広げたり深めたりできるようにする。

自己と「友達」とのつながりで大切にすることは、「自分の読みと友達の読みを比較し、似ているところや違うところを見出す交流をすること」である。そのための手立てとして、登場人物の心情についての自分の読みや、作品を比べて気が付いたことについての読みを友達と交流し、互いの感じ方や考えの違いに気付くことができるようにする。

自己と「未来」とのつながりで大切にすることは、「読みの広がりや深まりを実感すること」である。そのための手立てとして、本時の学習で「友達の読みから学んだこと」や「2つの作品を読むことのよさ」について振り返り、自分の読みの広がりや深まりを自覚することができるようにしていく。

以上の手立てにより、自分の読みを友達と交流し、読みの違いに気付くことができるようになるものとする。

4 単元の指導計画

(1) 目標

- ・ 問いに対する自分の読みを、自分の読みを進んで伝えようとしている。
【国語への関心・意欲・態度】
- ・ 同一テーマの作品を読んで、登場人物の心情や作品の共通点についての自分の読みをもち、交流を通して一人一人の感じ方の違いに気付くことができる。
【読むこと オ】
- ・ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の心情の変化や情景などについて叙述を基に想像して読むことができる。
【読むこと ウ】
- ・ 言葉には、思いや考えを表す働きがあることに気付くことができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ (ア)】

(2) 評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
戦争と家族をテーマにした作品について関心をもって読み、自分の読みを伝えようとしている。	作品について登場人物の心情や作品の共通点を比較し、一人一人の感じ方に違いがあることに気付いている。 登場人物の会話や行動、場面の様子などから、登場人物の心情の変化や情景などについて叙述を基に想像して読んでいる。	自分の読みを表す言葉を意識して、適切な言葉を使って感想を書いている。

(3) 指導計画 (全 8時間 本時7/8)

次	時間	◎ねらい ○学習活動・学習内容	評価規準 (評価方法)
一	1	◎ 『まちゃんと』の読み聞かせを聞いて、学習への見通しをもつことができる。 ○ 読み聞かせを聞いて感想を出し合い、学習への見通しをもつ。 ※並行読書開始	読み聞かせを聞いて、進んで感想を述べたり、友達の感想を聞いたりして、これからの学習への見通しをもっている。 【関】(発言・ノート)
二	1	◎ 『一つの花』の登場人物や時代、中心の出来事などの物語の設定を確かめ、感想から学習課題を設定することができる。 ○ 初発の感想を出し合い、学習課題について話し合う。	『一つの花』を読んでもった感想を伝えたり、感想から学習課題について考えたりしている。 【読】(ノート・発言)
	2	◎ 叙述を基に登場人物の心情や情景などについて想像して読むことができる。 ○ 「一つの花に込めた父の思い」という問いについての自分の読みを書きまとめたりする。	叙述を基に、「一つの花に込めた父の思い」を想像して読んでいる。 【読】(ノート・発言)
	3	◎ 交流を通して、「一つの花に込めた父の思い」についての自分の考えと友達の考えの違いに気付くことができる。 ○ 「一つの花」に込めた父の思いについて自分の考えをもって友達と交流する。	「一つの花」に込めた父の思いについて自分の読みと友達の読みには違いがあることに気付いている。 【読】(ノート・発言)
三	1	◎ 『おかあさんの紙びな』の登場人物や時代、中心の出来事などの物語の設定を確かめ、感想から問いを設定することができる。 ○ 初発の感想を出し合い、学習課題について話し合う。	『おかあさんの紙びな』を読んでもった感想を伝えたり、感想をから学習課題について考えたりしている。 【読】(ノート)
	2	◎ 叙述を基に登場人物の心情や情景などについて想像して読むことができる。 ○ 「紙びなをおり続けた母の思い」という問いについての自分の読みを書きまとめたりする。	叙述を基に、「一つの花に込めた父の思い」を想像して読んでいる。 【読】(ノート・発言)
	3 (本時)	◎ 『おかあさんの紙びな』と『一つの花』を比べて読み、作品の似ているところについての自分の読みと友達の読みとの違いに気付くことができる。 ○ 「紙びなをおりつづけるおかあさんの思い」を交流し、2つの作品の似ているところについて話し合う。	2つの作品を比べて、登場人物の心情など作品の似ているところについての自分の読みと友達の読みには違いがあることに気付いている。 【読】(発言)
	4	◎ 単元の学習の振り返りを行うことができる。 ○ 学習を振り返り、『キャラメルの木』の読み聞かせを聞いて、戦争や家族ということについて考えたことを書きまとめ、振り返りをする。	学習を振り返り、新たに考えることができるようになったことに気付いている。 【関】(ノート)

5 本時の指導計画

(1) 目標

『おかあさんの紙びな』と『一つの花』を比べて読み、作品の似ているところについての自分の読みと友達の読みとの違いに気付くことができる。 【読むこと オ】

(2) 評価規準

おおむね満足	努力を要する児童への支援
2つの作品の似ているところについて交流することを通して、自分の読みと友達の読みの違いに気付いている。 【読むこと オ】	自分の考えと似ている考えを関連付けたり、友達の考えを聞いて思ったことなどを導き出したりしながら、友達との感じ方の違いに気付くことができるようにする。

(3) 展開

展開	学習活動	学習内容	指導上の留意点・支援（◇評価）
導入 3分	1 本時の学習課題を確認する。		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈「事象」とのつながり〉</p> <p>前時までの学習を掲示から振り返り、2つの作品は登場人物や時代、中心の出来事など共通点があることを確かめ、子を思う親の気持ちには似ているところがあるのだろうかという課題意識をもたせる。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「紙びなをおりつづけたおかあさんの思い」を友達と交流したいという思いをもつことができるようにする。</p> </div>		
展開 32分	2 学習課題を解決する。 (1) 交流の手順を確かめる。 (2) お母さんの思いについてグループで交流する。 (3) 全体で交流する。	<p>〈手順〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 発表 2 質問・感想 <p>〈交流の観点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙びなを折り続けたお母さんの思いとその理由 ・根拠となる叙述 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に書いた「紙びなをおりつづけたお母さんの思い」についての個々の読みを事前に把握して分類をし、同じ観点で記述した児童と違う観点で記述した児童を組み合わせるグループを作り、交流を行う。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈「友達」とのつながり〉</p> <p>グループで交流して気付いたことを発言から広げ、価値付ける。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>友達の読みと自分の読みを比べることにより、読みを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> </div>		

<p>展 開</p> <p>32 分</p>	<p>(4) 交流を通して、自分の読みを再構成して書きまとめる。</p>	<p>〈お母さんの思い〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 途方に暮れていた ・ 悲しませたくない ・ 悲しむ顔を見たくない ・ わたしの幸せを願っている <p>〈2つの作品の登場人物の心情の共通点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 何もしてあげられないくやさしさ ・ 子どものことを思うやさしさ ・ 平和な世の中への願い ・ 戦争に対する怒り <p>〈自分の読み〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2つの作品の似ているところ ・ 友達の読みから学んだこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体交流では、「紙びなを折り続けたお母さんの思い」と『一つの花』のお父さんの思いを比べられるように構造的に板書を整理することで、共通点を見つけることができるようにする。 <p>◇ 2つの作品の似ているところについて交流することを通して、自分の読みと友達の読みの違いに気付いている。【読】(ノート・発言)</p>
<p>終 末</p> <p>10 分</p>	<p>3 学習を振り返る。</p> <div data-bbox="274 1191 1390 1473" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>〈「未来」とのつながり〉</p> <p>自分の読みの広がりや深まりを自覚することができるようにするために、振り返りの際に「2つの作品を比べて読むよさ」という観点を提示する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>2つの作品を比べて読むことで、初めの自分の読みから広がったり深まったりしたことを自覚し、考え方の違いの大切さに気付くことができるようにする。</p> </div> <p>4 次時の学習を確認する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習を通して身に付いた力が実感できるよう、教師による価値づけを図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 次時は戦争や家族ということについて考えたことを書きまとめ、学習の振り返りをするを予告する。